

# 為尹千首

詠千首和歌

権大納言藤原為尹

夏百首

夜蛍

ともし火のすきまにもるるひかりかと  
みつるや窓の蛍なるらん

夜蛍

ともし火のすきまにもるるひかりかと  
みゆるや窓の蛍なるらん

橋蛍

しばし又川瀬の蛍とどえして  
橋の下ゆく夕やみのそら

水上螢

池の面にうかぶ螢の星月夜

水くからからず更に見えつつ

池螢

夕やみにことにはたるのみだるるは

月に光やかるといけ水

沢螢

月ははや松をへだつるふけがたの

伏見の沢にとぶ螢かな

江螢

おほくらのいり江の月のあとに又

ひかり残して螢とぶなり

浦蛭

あま人の夜塩くむ間もうちやらで  
磯屋の方にもゆる蛭火

草蛭

小がや原薄にきえてとぶほたる  
又あらはるみち芝のうえ

蛭似露

とぶ蛭みだるる露もそれながら  
草のすゑ野に夕風ぞふく

蛭似玉

草のいとに玉ぬく露の数そへて  
蛭もすがる野への夕やみ

恋二百首

寄恋蛩

しのぶ中月出でぬまと人とへば

それもうかかれて蛩とぶなり

「国歌大観」より